

(4) 職業化を分野の1段階から設定していたが、他の分野との重複をさけるため、1～3段階の学習内容を削除した。

また、学習内容を中・高等部の生産学習に焦点をあてて精選したため、金銭の管理と貯蓄・家族の一員としての態度(家のくらし)・買い物を社会化にまわした。

(5) 紙工は、作業学習として成立に疑問があり削除した。

(6) 進路の理解の中に簡単な実務を入れた。

(7) 職業化は10項目から7項目に精選した。

(8) 指導すべき学習内容を、「指導しないよりする方がよい。」内容をさらに検討し、「指導しなければならない。」内容におさえ、再配列に努めた。

※ 別冊の段階別教育内容表(昭和56年度改訂版)を参照のこと。

#### 4 段階別教育内容年間配当表の作成

本校の教育課程の基本となる段階別教育内容表は、学習の中で目的的に使用される生活経験である。これを実際に活用するためには、各分野の項目を学校行事・季節感などにより統合し、年間に配当した計画によらなければ、授業が無計画になりがちになり社会自立をめざした見通しをたてることは困難である。

本校が作成した段階別教育内容の年間配当表は、1段階から6段階までの各段階別に、各月毎の行事・季節感の中で項目の統合をはかり、一貫した指導計画として作成したものである。これによって、確かな表現力を身につけるための指導に一本の筋を通したのである。

現実には、小学部の低学年は2段階の指導で、中学部は5段階の指導と言う訳にはいかないため、段階別教育内容年間配当表は、将来を見通し、学級での指導を確かなものにするための資料であって、モデルとしての意味しかもっていない場合もある。(昭和54年度作成)

各学部・学級での指導にあたっては、段階別教育内容年間配当表を資料とし、児童生徒の発達の実態を見極め、どんな経験が必要かをよく把握した上で、月別指導計画が立案されている必要がある。

その場合、月別指導計画は、学級の児童生徒の個人差が配慮されており、数段階にわたる分野の項目が取り入れられ、立案されているわけである。

以上、本校の教育課程の編成の手順を、目標設定、段階別教育内容表・同年間配当表作成の経過をもとに述べたが、開設以来、「積極的に社会に参加しうる人間の育成」をめざし、表現する力を身につける子という仮説の検証の中で、「表現化に視点をあてた教育課程の編成と展開」を研究テーマに焦点をしばり、学習指導を模索し続けてきているのである。